

# 社会政策学会 *Newsletter*

学会本部 大分大学経済学部 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/>  
 Tel & Fax 097-554-7682 E-mail: [ssspoita@cc.oita-u.ac.jp](mailto:ssspoita@cc.oita-u.ac.jp)  
 編集・発行 阿部 誠(代表幹事) 菅沼 隆(広報委員長)  
 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング  
 Tel:03-5206-7431 Fax:03-5206-7757 E-mail: [world@med.email.ne.jp](mailto:world@med.email.ne.jp)

## 目次

1. 会員総会の開催について
2. 次期代表幹事について
3. 第120回大会実行委員会からのお知らせ
4. 第120回大会プログラム概要
5. 第121回大会のお知らせ
6. 第119回大会開催校報告
7. 2009年度地方部会・専門部会活動報告
8. 幹事会議事録
9. 承認された新入会員

## 1. 会員総会の開催について

2010年度総会を次の通り開催いたします。会員の方はご出席下さい。

代表幹事 阿部 誠

日時：2010年6月19日(土)17時15分より  
 場所：早稲田大学3号館301教室  
 議題(予定)：

- 2009年度活動報告
- 2009年度決算報告
- 2010年度活動方針
- 2010年度予算
- 規定の整備
- 社会政策学会賞選考委員会報告
- 名誉会員の推挙
- 各種委員会報告
- その他

## 2. 次期代表幹事について

今期の代表幹事の任期は本年6月の会員総会までです。社会政策学会会則第16条にもとづいて、選挙で選出された幹事による第1回次期幹事会準備会を2月14日(日)午後4時半から東京大学経済学研究科棟で開催しました。この会議において、次期代表幹事として、久本憲夫会員(京都大学)が選出されました。任期は、本年6月から2年間です

代表幹事 阿部 誠

## 3. 第120回大会実行委員会からのお知らせ

社会政策学会第120回大会は6月19日(土)および20日(日)に早稲田大学のメイン・キャンパスで開かれます。共通論題に関しては国際会議場そして分科会は主に商学部の教室を使う予定です(なお授業との兼ね合いで、使用できる教室が確定するのが5月はじめになりますので、プログラムの発送もその頃になることを予めお詫び申し上げます)。

前回、早稲田大学で社会政策学会の大会が開催されたのは1989年でしたので、実に21年ぶりとなります。その時には古い大教室などを使いましたが、今回はもう少し設備の整った会議場や教室を準備できると思います。大隈講堂も修復され、商学部の入っている棟も昨年新築されたばかりで、一昔前とはだいぶ異なるキャンパスになっています。

共通論題も「地域の生活基盤と社会政策」という目新しい切り口ですので、会員の皆様が数多く参加されること心からお待ちしています。

第120回大会実行委員長 鈴木宏昌

## 4. 第120回大会プログラム概要

社会政策学会第120回大会の共通論題のテーマは、「地域の生活基盤と社会政策」です。現在決定している内容は以下の通りです。

なお、スケジュールにつきましては、会場の都合で若干変更になる可能性があります。会場等の詳しい内容とともに、後に送付されます大会プログラムを必ずご参照ください。

春季大会企画委員長 佐口和郎

第1日 6月19日(土)

9:30~11:30 テーマ別分科会

<テーマ別分科会・第1>

近代日本における女性労働

〔ジェンダー部会・労働史部会〕

座長・コーディネーター：竹内敬子(成蹊大学文学部)

1. 近代日本における女性労働と「小経営」

谷本雅之(東京大学大学院経済学研究科)

## 2. 近代日本繊維産業労働史再考

榎一江(法政大学大原社会問題研究所)

### < テーマ別分科会・第2 >

高齢者の生活実態と生活保障制度再構築の課題

[ 社会保障部会 ]

座長・コーディネーター：浜岡政好(佛教大学社会学部)

1. 要援護高齢者の生活問題と潜在化の今日の特徴  
小川栄二(立命館大学産業社会学部)
2. 高齢者の社会的孤立と生活保障制度再構築の方向性  
河合克義(明治学院大学社会学部)
3. 高齢者の生活・孤立問題と地域福祉活動のあり方  
菅野道生(明治学院大学大学院社会学研究科院生)

### < テーマ別分科会・第3 >

デンマークの雇用政策 - フレキシキュリティの歴史的  
前提と到達点

座長・コーディネーター：菅沼 隆(立教大学経済学部)

1. デンマーク福祉国家の歴史の変遷とシティズンシップ  
嶋内 健(立命館大学大学院社会学研究科院生)
2. デンマークの労働市場改革論争 - 1992年ツァイテン委  
員会報告の分析  
菅沼 隆(立教大学経済学部)
3. デンマーク雇用政策のパフォーマンス評価  
岩田克彦(職業能力開発総合大学校専門基礎学科)

11:30 ~ 13:00 昼休み

(幹事会、各種委員会、専門部会)

13:00 ~ 17:00 共通論題

## 地域の生活基盤と社会政策

座長・コーディネーター：佐口和郎

(東京大学大学院経済学研究科)

- 報告1. 「地域福祉から地域社会政策へ」  
栃本一三郎(上智大学総合人間科学部)
- 報告2. 「健康概念の転換とその地域展開」  
猪飼周平(一橋大学大学院社会学研究科)
- 報告3. 「地域主体の産業・雇用政策のあり方」  
辻田素子(龍谷大学経済学部)

総括討論

17:15 ~ 18:00 総会

18:30 ~ 20:30 懇親会

第2日 6月20日(日)

9:30 ~ 11:30 テーマ別分科会・自由論題

### < テーマ別分科会・第4 >

「改正パートタイム労働法」と均等・均衡待遇原則

[ 非定型労働部会 ]

座長：長井偉訓(愛媛大学法文学部)

コーディネーター：青山悦子(嘉悦大学経営経済学部)

1. パートタイム労働政策の方向性  
畑井清隆  
(LEC 東京リーガルマインド大学総合キャリア学部)
2. パートタイム労働者に対する雇用管理の現状と課題 -  
改正パートタイム労働法との関連で  
青山悦子(嘉悦大学経営経済学部)
3. 改正パートタイム労働法と欧州の動き  
竹信三恵子(朝日新聞社)

### < テーマ別分科会・第5 >

東アジア社会政策研究の新しい段階

[ 日本・東アジア社会政策部会 ]

座長：田多英範(流通経済大学経済学部)

コーディネーター：武川正吾

(東京大学大学院人文社会系研究科)

金 成垣(東京大学社会科学研究所)

1. 比較福祉国家研究における段階論と類型論  
金 成垣(東京大学社会科学研究所)
2. 社会政策における「東アジア的な道」  
李 蓮花(東京大学大学院人文社会系研究科)
3. 東アジア地域統合の社会的次元  
武川正吾(東京大学大学院人文社会系研究科)

### < 自由論題・第1 国際労働力移動 >

座長：畑 隆(富士常葉大学総合経営学部)

1. デジタルカメラの海外生産と移住労働者  
中村真人(東京女子大学現代教養学部)
2. 中国の「国際労働輸出」と日本の外国人研修・技能実  
習制度  
董 澤龍(専修大学大学院経済学研究科院生)
3. 日本の入管法制の変遷と外国人労働者移入 - 長期の視  
点から

首藤(杉田)佳世  
(早稲田大学大学院商学研究科院生)

### < 自由論題・第2 ワーク・ライフ・バランス >

座長：田中洋子(筑波大学大学院人文社会科学研究所)

1. オランダにおけるワーク・ライフ・バランスの政策展開  
久保隆光(明治大学商学部)

2. 保育労働におけるワーク・ライフ・バランス指標  
永井隆雄(九州大学大学院経済学府院生)

<自由論題・第3 貧困と生活最低限>

座長：藤原千沙(岩手大学人文社会科学部)

1. 近年の日本におけるワーキングプアの動態  
五石敬路(東京市政調査会)
2. 「流動社会」における生活最低限の実証的研究  
岩田正美(日本女子大学人間社会学部)  
岩永理恵(神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科)  
松本一郎(法政大学現代福祉学部)  
村上英吾(日本大学経済学部)

11:30~12:50 昼休み

(幹事会、各種委員会、専門部会)

12:50~14:50 テーマ別分科会・自由論題

<テーマ別分科会・第6> 公共職業訓練の現状と課題  
〔産業労働部会〕

座長：上原慎一(北海道大学大学院教育学研究院)  
コーディネーター：永田萬享(福岡教育大学教育学部)

1. 公共職業訓練の展開とその特徴  
永田萬享(福岡教育大学教育学部)
2. アメリカにおける低所得層の就労支援 労働力投資法  
を中心に  
久本貴志(福岡教育大学教育学部)

<自由論題・第4 雇用形態の多様化>

座長：清山 玲(茨城大学人文学部)

1. アメリカの病院経営における派遣看護師の意義  
早川佐知子(明治大学大学院経営学研究科院生)
2. 雇用形態の多様化と家族の役割に関する日韓比較  
大沢真知子(日本女子大学人間社会学部)  
金 明中(ニッセイ基礎研究所)
3. パート労働法をめぐる議論に関する歴史的考察  
- 1980年代から1993年までの議論を中心に  
崔 海燕(一橋大学大学院社会学研究科院生)

<自由論題・第5 経営と労働>

座長：熊沢 透(福島大学経済経営学類)

1. 養成工制度から見た労働問題研究史  
木下 順(国学院大学経済学部)
2. 現代における労働者自主生産運動の実態  
杉村めぐる(一橋大学大学院経済学研究科院生)

3. 公共性を重視した日本近現代の経営者の位置づけの  
試み

兼田麗子(早稲田大学日本地域文化研究所)

<自由論題・第6 医療と介護>

座長：長澤紀美子(高知女子大学社会福祉学部)

1. 地域歯科保健からみる北欧諸国の歯科医療改革  
尾崎哲則(日本大学歯学部)  
野村真弓(ヘルスケアリサーチ株式会社)
2. 中国の新型農村合作医療制度の実施効果に対する  
検証  
王 文亮(金城学院大学現代文化学部)
3. 中国大連市における社区高齢者福祉サービスの現状と  
課題  
邵 文娟(滋賀大学大学院経済学研究科院生)

<自由論題・第7 自由・平等・社会契約>

座長：中澤秀一(静岡県立大学短期大学部社会福祉学科)

1. 介護における実質的な選択の自由の意味とその可能性  
の理論的検討 - 負担と利用の公平性・労働市場にお  
ける性別役割分業の観点から  
角 能(東京大学大学院教育学研究科院生)
2. 日本の介護保険制度における介護ニーズとサービス利  
用の不平等  
徐 東敏(日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科院生)  
近藤克則(日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科)
3. 合理性水準変換技術としての社会契約  
高橋 聡(岩手県立大学社会福祉学部)

15:00~17:00 テーマ別分科会・自由論題

<テーマ別分科会・第7>

地域における若年者のキャリアと家族形成の課題

座長：浅川和幸(北海道大学大学院教育学研究院)  
コーディネーター：石井まこと(大分大学経済学部)

1. 地域労働市場における若年者の就業行動  
阿部 誠(大分大学経済学部)
2. 地域における若年不安定就業者のキャリアの課題  
石井まこと(大分大学経済学部)  
木本喜美子(一橋大学社会学部)  
中澤高志(明治大学経営学部)
3. 若年不安定就業者の経済的移行と家族形成に関する社  
会階層比較 - 親の家からの独立の課題を中心に  
宮本みち子(放送大学教養学部)

<テーマ別分科会・第8>

高齢者在宅ケアとそのネットワーク化に関する国際比較

- 日本およびドイツにおける現状とその政策的方向性  
〔保健医療福祉部会〕

座長：小山秀夫(静岡県立大学経営情報学部)  
コーディネーター：藤澤由和(静岡県立大学経営情報学部)

1. 在宅ケアネットワークの方向性について
  - ドイツの在宅看取りネットワークを参考に  
藤本健太郎(静岡県立大学経営情報学部)
2. 在宅ケアネットワークの構築に向けて
  - 滋賀県東近江市の事例から  
稲川武宣(三重大学人文学部)

< テーマ別分科会・第9 >  
フランスと日本の家族政策・子ども手当  
〔春季企画委員会〕

座長：三富紀敬(静岡大学人文学部)  
コーディネーター：深澤 敦(立命館大学産業社会学部)

1. フランスにおける家族手当と家族政策の歴史的展開  
深澤 敦(立命館大学産業社会学部)
2. 現代フランスにおける育児支援  
船橋恵子(静岡大学人文学部)
3. 児童手当から子ども手当へ  
北 明美(福井県立大学看護福祉学部)

< 自由論題・第8 雇用政策 >

座長：禹 宗蟻(埼玉大学経済学部)

1. 社会政策としての勤労権保障と雇用保護法制  
北村 貴(早稲田大学大学院公共経営研究科院生)
2. 創業・起業支援政策と雇用  
福島淑彦(早稲田大学大学院政治経済学術院公共経営研究科)
3. 失業時セーフティネットの比較研究 - 日独比較を中心に  
福田直人(東京大学大学院経済学研究科院生)

< 自由論題・第9 排除と協働 >

座長：佐々木貴雄(東京福祉大学社会福祉学部)

1. ホームレス状態の解消と持続する排除  
山田壮志郎(岐阜経済大学経済学部)
2. ドメスティック・バイオレンス被害者支援を行う民間支援団体と行政との「協働」の展開と課題 - 民間シェルターの調査を通して  
小柴久子(山口大学大学院東アジア研究科院生)
3. セーフティネット貸付の動向と課題  
小関隆志(明治大学経営学部)

## 5 . 第 1 2 1 回大会のお知らせ

第 121 回大会を下記の要領で開催することになりました。会員の皆さまには、ご参加、ご応募につき、ご予約くださいますよう、ご案内申し上げます。

### 1. 開催校・日時

来る 10 月 30 日(土)・31 日(日)に、愛媛大学(大会実行委員長：長井偉訓)において開催します。

第 1 日目がテーマ別分科会・自由論題分科会・書評分科会・総会・懇親会、第 2 日目が共通論題となっております。

### 2. 共通論題

#### (1) テーマ：「現代日本の社会政策の評価と将来選択」

21 世紀に入り、グローバルな社会経済変動に伴う人々の生活基盤の脆弱化やこれに対応すべき国内的な公共福祉機能の不安定化などを背景に、日本の社会政策の構造変容が一層加速化してきている。

短期的な内閣継承や政権交代の中で、夥しい数の社会政策関連立法の制定改編が行われてきているが、その結果、今日の日本の社会政策は、どのような姿となり、現実の社会的要請との関わりで、今後、どのような体系調整的課題を抱えることになっているのか、多様な学的領域を包含する社会政策学会として、国際的動向も視野に収めながら、歴史的総括を行い、今後の政策選択への指針を問うべき状況に至っている。

そこで、本共通論題では、異なる学域ないし方法の視

点から、現実の社会政策の到達点に対し分析的な評価を与え、それをもとに、今後の社会政策の方向性について、学術的な見地から指針提示を行うこととする。

#### (2) 座長・報告の構成・報告者

座長：埋橋孝文(同志社大学)  
禿あや美(跡見学園女子大学)

- 報告 1. 社会学の視点から(仮題)  
平岡公一(お茶の水女子大学)
- 報告 2. 経済学の視点から(仮題)  
小野塚知二(東京大学)
- 報告 3. 健康・福祉・介護政策の視点から(仮題)  
小笠原浩一(東北福祉大学)
- 報告 4. 雇用・労働政策の視点から(仮題)  
佐藤博樹(東京大学)
- コメンテーター：宮本太郎(北海道大学)

秋季大会企画委員長 小笠原浩一

### 3. テーマ別分科会企画・自由論題報告の公募予定

5 月上旬の公募開始、7 月上旬の締切りを予定しています。詳細は、追ってメールニュースと次号ニューズレターでお知らせし、あわせて、学会ホームページに応募様式とともに公開いたします。ご準備いただき、ふるってご応募くださるようお願いいたします。

## 6 . 第 1 1 9 回大会開催校報告

### 1. 第 119 回大会概要

社会政策学会第 119 回大会は、2009 年 10 月 31 日(土)・11 月 1 日(日)の両日、名古屋市守山区の金城学院大学キャンパスで開催された。

事前申込者 185 名、アクセス至便の立地を反映してか、当日参加者が 134 名と非常に多かった。したがって、大会参加者数は 319 名、内当日欠席者 14 名で実参加者数は 305 名であった。地方大会としては比較的大勢の参加者に恵まれた。

また、懇親会参加者は 122 名で、この内当日申込者が 36 名にのぼり、後で触れるように実行委員会を大いに慌てさせることになった。

以下、大会日程の決定、主要事項の準備経過、および大会当日の様を取り上げ、第 119 回大会のまとめにかきたい。

### 2. 会場の確保と日程

金城学院大学は中規模校であり、500 人収容規模の大教室がない。このため大会開催をお引き受けした当初から共通論題はランドルフ講堂(収容人員 1700 名)を使うことに決めていた。

ところが、2009 年は金城学院創立 120 周年、同大学創立 60 周年を迎え、10 月の講堂は記念行事が目白押しの状態であった。わずかに 10 月 31 日・11 月 1 日が空いていた。この週しかないと考え、4 月初旬には仮押さえをした。

近年どこの大学も補講などで土曜日の教室使用が日常化している。したがって分科会を土曜日を開くと補講などとぶつかる可能性があった。そこで、第 1 日(土)に共通論題を講堂で、そして第 2 日(日)に各分科会を新講義棟である W9 号館で開催することとし、この日程を 4 月幹事会に提案し、了承された。

### 3. プログラム作成

第 119 回大会実行委員会は 5 月 26 日、金城学院大学の 4 名の会員、すなわち王文亮、柴田謙治、杉本貴代栄そして山本によって組織され、実行委員長に山本が選出された。同時に秋季企画委員会(小笠原浩一委員長)で決定された自由論題公募日程などを踏まえて、山本が中心となって当面の最重要課題であるプログラムの作成を進めることを決定した。

7 月 4 日小笠原委員長の計らいで、秋季企画委員会が金城学院大学において開催され、終了後企画委員の方々に大会会場に予定されたランドルフ講堂・W9 号館講義棟などを視察していただき有益なアドバイスをいただいた。

プログラム用原稿作成作業は 6 月下旬頃から取りかかったが、共通論題・自由論題の報告要旨以外の部分については、全面的に前回大会開催校日本大学で作成されたプログラムを参考にさせていただいた。

こうした経験の引継は効率がよければかりでなく、誤りを極小化する上でも手堅い手法だと思う。

次に自由論題について上記企画委員会後に各分科会別に仕分けされた報告要旨をお送りいただき、実行委員会

で各分科会ごとに会場を割当てる作業を行った。これは簡単そうで、意外に悩ましい作業であった。

当初 7 月 27 日(月)には残る共通論題報告レジュメが送られてくる手はずになっていた。ところが翌日になって、講演を依頼していた厚生労働省の二人の内お一方が人事異動がらみで講演を辞退してきたとのことで、小笠原委員長から対応を考えるので報告レジュメの送稿が 1 週間ほど遅れる旨の連絡をいただいた。

じつは私はプログラム原稿を印刷所に入稿した後、王・柴田両委員に原稿の校正をお願いして、8 月 3 日から 22 日まで国外調査旅行に出発する予定にしていた。

ところが、共通論題の講演をめぐって事態が変化したため、結局両委員に小笠原委員長からの原稿の受け取り、プログラム原稿への落とし込みを追加依頼し、予定通り出発したのであった。

### 4. 「事務局長」の配置

帰国した私を待っていたのは刷り上がって届けられた大会プログラムの山であった。これを振込用紙とともに封筒に詰め、学会事務センター(ワールドプランニング)から送られてきた宛名シールを貼って送付しなければならない。単純作業と甘く見ていたが、やってみると予想以上に時間と労力を必要とする仕事であることが分かった。

8 月月末に近くなると、ぼちぼちではあったが参加者から大会口座に事前振込が届くようになった。この記録も間違いなく作成していかなばならない。

大会開催に向けて準備作業をいよいよ本格化させようとした矢先の 9 月 8 日に私が目を痛めて入院することになった。いよいよこれからという時にショッキングな入院であったが、手術後ただちに王・柴田両委員(杉本委員は同日程の別の学会に参加されるということで、以後可能な範囲でご協力いただくことになった)と連絡を取り、柴田委員に「事務局長」として作業全体の統括をしていただくことになった。

### 5. 大会前日までの準備作業

大会開催日が視野に入った 10 月中旬頃の主な準備作業には次のようなものがあつた。

参加者の確認と受付用名簿作成

アルバイトの募集・作業内容の説明

各種看板・掲示の作成

送られてきた発表原稿の確認、各分科会会場ごとの仕分け

送られてきたパワーポイントの PC へのインプット

名札の作成・ホルダーへの挿入

当日参加者への印刷物、名札、弁当券などの袋詰め

これらの作業を時にアルバイトを使い、大学職員の支援を受けながら、実行委員が手分けしてこなしていった。

なかでも柴田事務局長と王委員は、アルバイト学生向けに詳細なマニュアルを作成して実質的な事前研修を行うとともに、各自の作業分担を明示するなど労務担当顔負けの研修を行った。

アルバイト学生の対応が好評であったとすれば、その一部は柴田・王両委員による研修の成果である。柴田事務局長はまた当日参加者が多くなると予想し、配布物を50部と多めに用意した。これは当日受付業務を円滑にする上で大きく役に立ったが、誤算は当日参加者が予想をはるかに超えた130名以上あったということであった。

この年は幹事の選挙が行われたため、大会前日(10月29日)には8名の学生を開票作業のお手伝いに送り込んだ。これは学生にとっても非常によい予行演習になった。開票作業終了後、他の学生も合流して翌日の会場設営を行った。

#### 6. 当日参加者の多さに振り回された第1日

大会第1日目、8時半には全員が集合して受付、講堂内部、W9号館の休憩室を中心に最終点検を行った。9時過ぎには最初の参加者が受付を行い、以後次第に来場者が増え、受付は順調に進むかに思われた。ところが間もなく50部作っておいた当日参加者用配布物が底をついてしまい、追加セットを作るために印刷室に駆け込まねばならない仕儀となった。このため当日参加者の一部の方々にご迷惑をおかけすることになってしまった。

午後になって当日参加者の内、懇親会参加申込をした方が36名という数字が届けられた。ただちに委託業者である生協の担当者に連絡を入れた。土曜日でしかも時間はすでに午後2時を回ろうとしている。36名の増員に見合うだけの食事の用意は無理というのが生協の回答であった。主催者としてもこのまま引き下がるわけにはいかない。「ナントカシテ」を呪文のように唱え続けたところ、対処の方法が見いだせたのか、最終的には「ナントカシマショウ」という返事。こうして122名の参加者をお迎えして懇親会が開かれた。

狭い会場がしだいに熱気に包まれていくのを感じて、ほっと胸をなで下ろしたのであった。過分の謝意。

大会第2日。この日は書評分科会2、テーマ別分科会6、自由論題による分科会10、あわせて18の分科会がW9号館の講義室を使って行われた。一番心配したのは多くの方がパワーポイントを使われたが、こちらで用意したPCあるいは各講義室備え付けのプロジェクターが動作不良を起こすことであった。しかし、幸いそうしたトラブルは一件もなく、各分科会は順調に日程をこなしていた。

最終セッションに移る頃には、灰色の空から雨が降り出し、雨足も次第に強くなった。中には傘を持たない方もいて、相合い傘でお帰りになる方も少なくなかった。お帰りになる際、受付にわざわざお礼をのべていかれる方もいて、大会準備に奔走した苦勞が報われたような温かい気分にさせられた。

無事終了したことを喜ぶ間もなく、各分科会会場・休憩室・ロビーなどの清掃を行った。業務用のゴミ袋が10袋ほどもゴミ箱前に整列することになった。これもまた大会の成果というべきであろう。

#### 7. 収支報告書

第119回大会の収支決算は収支報告書の通りである(注)。特段コメントすることもないが、最終的に48270円の黒字となり、更なるご迷惑をおかけしないで済んだことは幸いであった。

最後になったが、大会運営資金の扱いについて私に誤解があり、このために石井会計担当幹事には格別のご指導をいただいた。記して感謝申し上げたい。

(文責：山本郁郎)

注：ニュースレターでは割愛した(編集担当)

## 7. 2009年度地方部会・専門部会活動報告

### 地方部会活動報告

#### ● 関西部会

第72回関西部会を下記の通り開催した。

日時：2009年12月5日(土)10時30分～16時30分

場所：大阪経済大学B館3階32教室

参加者：42名

研究報告：

#### 午前の部

「労働力としての外国人研修生・技能実習生」

久保友美恵(立命館大学院経済学研究科)

「大河内理論と高齢者就労」

宮地克典(大阪市立大学大学院経済学研究科)

#### 午後の部

特集：「10年目の介護保険制度を検証する」

「介護保険制度の変容と今後の視座」

森 詩恵(大阪経済大学)

「地域包括支援センターの実態と社会問題・高齢者の生活 - 近畿圏の地域包括支援センター実態調査を中心に」

新井康友(中部学院大学)

三浦ふたば(京都市御池地域包括支援センター)

「高齢者の生活支援における自治体の課題」

佐藤卓利(立命館大学)

遠方からの参加者や介護現場に携わられている方々の発表や積極的な質問があり、部会は盛況にうちに修了した。

(文責：櫻井幸男)

#### ● 中四国部会

2009年9月20日(日)午後1時半～午後5時半、高知大学朝倉キャンパス人文学部棟2階第4会議室において以下の3報告がなされた。

(1)「高度成長期の授産事業と居職型貧困 - 大阪と京都を事例として」

高野 剛(広島国大大学)

- (2) 「企業年金の理論と歴史 - 1960年代以前のアメリカ企業年金を中心に」

吉田健三(松山大学)

- (3) 「新規卒者の就職市場の動向 - 大阪と埼玉の事例」  
伊佐勝秀(西南学院大学)

参加者は10名であったが、各報告に関して活発な質疑がなされ、終了後、高知料理に舌鼓をうちながら親睦を深めた。

(文責：長井偉訓)

#### ● 東海部会

本年度の東海部会研究会は開催しませんでした。

毎年1回、12月初旬をめどに部会研究会の開催を続けてきましたが、今年度は東海部会に属する金城学院大学にて秋の全国大会が開催されたため、余裕がなく部会を開催できませんでした。2010年度は必ず開催できるよう、今から準備を進めるつもりです。

(文責：木村隆之)

### 専門部会活動報告

#### ● 労働組合部会

労働組合部会は、学会大会ごとにテーマ別分科会を開催することを中心として活動をおこなった。

まず、第118回(春季)大会では、高須裕彦会員(一橋大学フェアレーパー研究教育センター)をコーディネーターとして、「大学や高校における労働教育の現状と可能性」をテーマする分科会を開き、会員以外の2人の方に報告をおこなっていただいた。

連合(日本労働組合総連合会)副事務局長の山本幸司氏には「連合が推進する大学や高校における労働教育」と題し、連合の組織内における労働教育と、高校・大学との連携による労働教育の具体的な実践例を報告していただいた。

また、北海道大学大学院法学研究科の道幸哲也教授には、2007年に立ち上げたNPOの「職場の権利教育ネットワーク」による「学校におけるワークルール教育」の現状と課題を報告していただいた。参加者はおよそ60名であった。

第119回(秋季)大会においては、山垣真浩会員(大阪経済法科大学)座長に、兵頭淳史会員(専修大学)をコーディネーターに、「トヨタ労使関係の今日的動向」をテーマとする分科会を開催した。

猿田正機会員(中京大学)がトヨタ自動車の生産システム、人事管理、地域への影響力などを中心に、「トヨタ労使関係の現状と問題点」を報告した。

また、若月忠夫氏(全トヨタ労働組合委員長・非会員)には2006年に結成された少数派労働組合である「全トヨタ労働組合の結成とその後のたたかい」について、友好労組・団体との連携などを含めて、報告していただいた。参加者は約50名であった。

(文責：浅見和彦)

#### ● 産業労働部会

今年度は第118回社会政策学会において、「労働者供給事業の歩みと課題・展望」と題した部会分科会を5月24日午後、二部に分け、二つの時間にわたり開催した。座長、コーディネーターは橋元秀一氏、報告題名と報告者は順に「労働者供給事業の歩みと課題・展望」(伊藤彰信氏、労働者供給事業関連労働組合協議会)、それへのコメント、瀧井葉二氏(連合非正規労働センター)、「全港湾の労働者供給事業の歴史、および現状・課題」(伊藤彰信氏、全日本港湾労働組合)、「スタッフファームの労働者派遣事業の現状と課題」(斎藤壽氏、企業組合スタッフフォーラム)であった。

派遣切り、年越し派遣村等非正規労働問題、派遣労働問題等が社会的に注目を浴びる中で、労働組合の側でも具体的な対応が求められている。その対応策のひとつとして、戦後、労働組合のみに許容されてきた労働者供給事業を活用し、労働条件に規制を加える、という方式が考えられる。

今回は、そうした方式に具体的に取り組んできた労働組合の方から活動について報告していただくとともに、そうした方策の今後の展望について認識を深めていこうとするものであった。午後一杯という長時間にわたる開催にもかかわらず、当日は多くの参加者を得て、活発な討議がなされた。

その他の活動としては、10年度の部会分科会に向けての準備を行い、次回の春の学会で部会として分科会を開催することが決定している。

(文責：白井邦彦)

#### ● 非定型労働部会

##### 1. 全国大会への参加

2009年度春季(第118回)大会(日本大学法学部)において、テーマ別分科会・第2「派遣法の見直しと労働運動の課題」で参加した。

座長：笹島芳雄(明治学院大学)

コーディネーター：長井偉訓(愛媛大学)

以下2つの報告が行われた。

- (1) 「労働者派遣法見直しの課題」

脇田 滋(龍谷大学)

- (2) 「派遣法の抜本的改正に向けての労働運動の課題」

関根秀一郎(派遣ユニオン)

時期的にリーマン・ショック後の派遣切り・「派遣村」問題、派遣法改正案が国会に上程されていて問題関心が高かったということもあり、各報告後、フロアから改正案を巡る政治状況など多くの質問があり、持ち時間2時間をかなり延長して白熱した議論が行われた。

##### 2. 部会例会の実施

2010年3月27日(土)午後1時~4時半、明治学院大学本館8階経済学部共同研究室において、以下、3本の報告が予定されている。

(1)「家内労働法 40 年目の検証 - 改正家内労働法に向けた政策論議」

高野 剛(広島国際大学)

「現場からのコメント」

豊田太一(全日本家内労働者組合総連合/東京靴工組合)

(2)「保育の現状と問題点 - 主に非典型雇用の観点から - 」

永井隆雄(九州大学大学院院生)

(3)「パートタイム労働政策の方向性」

畑井清隆(LEC 大学)

注：本報告作成時点が部会例会開催以前のため、参加人数などは不明。

(文責：長井偉訓)

● 総合福祉部会

日時：2010 年 2 月 21 日 (日) 13:30 ~ 17:00

場所：京都府立大学 附属図書館

テーマ：北欧における男女平等政策と子ども・家族支援

座長：深澤 敦(立命館大学)

報告者：

福島利夫(専修大学)「スウェーデンのジェンダー平等統計の運動論的展開」

竹田昌次(中京大学)「1998 年ノルウェーひとり親手当制度の改革」

石黒 暢(大阪大学、会員外)「デンマークの子育て支援施策の動向」

コメント：上掛利博(京都府立大学)

本年の総合福祉部会は、深澤座長のもとで「北欧における男女平等政策と子ども・家族支援」という共通テーマを設け、スウェーデン、ノルウェー、デンマークの 3 カ国の事例を取り上げて議論した。

報告内容は、スウェーデン中央統計局(福島利夫訳)『スウェーデンの女性と男性～ジェンダー平等のためのデータブック 2006』(ノルディック出版、2008 年)をもとに、人権論と運動論という清新な視点から男女平等統計の意味内容を解説、Jane Lewis の「ノルウェーのシステムは女性を基本的に妻として母として処遇し続けている」という指摘や日本の母性保護論争をふまえて、「男女平等でノルウェーはスカンジナビアの劣等生では？」という大胆な問題提起、デンマークの家族政策は、柔軟な育児関連休業制度や質の高い保育所と学校教育、利用しやすい社会サービスなど、家族が子育てに責任を果たせるよう「社会が家族のために良い枠組みをつくってサポート」していると指摘した。

コメントと討論は、北欧 3 カ国の国土や人情の差異、ノルウェーにみる「時間の男女平等」、社会全体の平等・民主主義の到達点、北欧における「家族」の位置、日本の子ども手当の意味など多岐にわたった。

子育て支援と男女平等の全体レベルでは北欧と日本で歴然とした差があること、フィンランドの報告が欠けていた点などについて指摘があった。

なお、参加者が 12 名と少なかったのは残念であった。

(文責：上掛利博)

● 少子高齢部会

1. テーマ：今後の研究課題について考える。

日時：2009 年 3 月 26 日(木)14:00 ~ 18:00

場所：明治大学(駿河台キャンパス)

参加者：14 名

(1)社会保障の視点から

「『21 世紀の社会と労働』の独自性」

佐々木貴雄(東京福祉大学)

「『21 世紀の社会と労働』に対する個人的な認識」

森 周子(佐賀大学)

「公的年金に求められる機能」

山本麻由美(北翔大学)

(2)労働問題の視点から

「研究フィールドの設定について」

石川公彦(一橋大学)

「雇用形態の多様化と人材育成 - コールセンターに見る非正規雇用の実態と人事労務管理」

島袋隆志(明治大学)

2. 日時：2009 年 6 月 6 日(土)13:30 ~ 18:00

場所：明治大学(駿河台キャンパス)

参加者：7 名

(1)「フランスの資格制度」

徳光直子(一橋大大学院)

(2)「21 世紀の社会政策モデルの検討 - オランダの社会政策改革」

久保隆光(明治大学)

3. 日時：2009 年 10 月 24 日(土)13:00 ~ 17:00

場所：明治大学(駿河台キャンパス)

参加者：11 名

(1)「長時間労働問題と人事労務管理 - 運輸系大企業 A 社の事例を中心に」

渡部あさみ(明治大大学院)

(2)「書評：トニー・フィリッツパトリック著(武川・菊地訳)『自由と保障 - ベーシック・インカム論争』草草書房(2005)」

森 周子(佐賀大学)

佐々木貴雄(東京福祉大学)

山本麻由美(北翔大学)

4. 日時：2010 年 3 月 11 日(木)17:30 ~ 21:30

場所：明治大学(駿河台キャンパス)

参加者：10 名

(1)「アメリカの医療政策と病院経営 - 派遣看護師のもつ意義から見えてくること」

早川佐知子(明治大大学院)

(2)「社会政策が対象とする人たちの変容に目を向けた話題提供」

山本麻由美(北翔大学)

(3)「21 世紀の社会政策の方向 - 個的社会政策」

高田一夫(一橋大学)

(文責：高田一夫)

他の部会報告は次号に掲載する予定です。(編集担当)

## 8. 幹事会議事録

### ● 第 12 回幹事会議事録

(1)名称：社会政策学会 2008-2010 年第 12 回幹事会

(2)日時：2009 年 10 月 30 日(金)14:00～15:15

(3)場所：金城学院大学 W9-504 演習室

(4)出席：阿部、石井、菅沼、玉井、都留、矢野、  
垣田(オブザーバー) (出席 7 名)

欠席：岩田、埋橋、遠藤、小笠原、小越、佐口、沈、  
鈴木、田中、都留、久本、平岡、布川、藤澤、  
宮本、室住、森、矢野、山本、吉村

(5)議題

#### 1. 会員の入会・退会

阿部代表幹事より、入会承認は明日の幹事会にて行うこと、および 1 名から退会の届出があったことが報告された。

#### 2. 秋季大会企画委員会報告

明日の幹事会にて小笠原幹事から報告予定であることが、阿部代表幹事より述べられた。

#### 3. 第 119 回大会実行委員会報告

大会準備のため欠席した山本幹事からの伝言により、181 名の事前申し込みがあったこと、準備は順調に進んでいることが石井幹事より報告された。

#### 4. 第 120 回大会実行委員会報告

明日の幹事会にて鈴木幹事から報告予定であることが、阿部代表幹事より述べられた。

#### 5. 編集委員会報告

明日の幹事会にて平岡幹事から報告予定であることが、阿部代表幹事より述べられた。

#### 6. 広報委員会報告

菅沼幹事より、ニューズレター通巻 61 号の発行、広報委員会の開催予定について報告が行われた。

#### 7. 国際交流委員会報告

明日の幹事会にて沈幹事から報告予定であることが、阿部代表幹事より述べられた。

#### 8. 学会賞選考委員会の委嘱について

阿部代表幹事より、留任する遠藤公嗣委員、竹内敬子委員に加え、新たに佐藤忍会員(香川大学)、三重野卓会員(山梨大学)、室住眞麻子会員(帝塚山学院大学)に委嘱することが提案され、承認された。

#### 9. 臨時総会の議事進行について

阿部代表幹事より、10 月 31 日(土)に開催される臨時総会の議題の確認が行われた。

#### 10. 今後の大会開催校について

阿部代表幹事より、今後の大会開催校についての報告

があり、2012 年度秋季大会は北海道部会の担当の予定であるが、同ブロックは大学数が少なくローテーションの負担が大きいことが紹介された。意見交換をするなかで、当面は北海道部会での開催の可能性を探り、開催が困難であれば北関東・甲信越地域を検討することとした。

なお、2013 年度秋季大会は大阪経済大学で開催の予定である。

#### 11. 会則・諸規定の整備について

阿部代表幹事より、会則 26 条の委員会規定では、どのような委員会を置くのかの規定がないので、規定を見なおしたほうがよいとの遠藤幹事の意見が紹介され、引き続き検討を行うこととした。

この他に、企画委員会の任期の規定、および大会実行委員会の規定(実施要領)を整備することが指摘された。

大会実行委員会の役割については、前幹事会でまとめたものがあるので、それを参考にすることとした。

矢野幹事より、大会実行委員会規定の整備に関連して、学会本部の役割の見直し(特に金銭管理)、大会の準備・運営についての外部業者への委託といった大会開催校の過重負担を避けるための対策が提案された。

他学会の運営方法も参考にしながら引き続き改善を検討することとした。

玉井幹事より、幹事選挙について、会員数が増加した結果、各地域ブロック別の人数も変わっているため、一度定数配分について検証作業を行うことが提案された。

#### 12. 次期幹事選挙の結果について

玉井選挙管理委員長より、開票結果が報告された。16 名の幹事および 1 名の監査担当の選出が報告された。

### ● 第 13 回幹事会議事録

(1)名称：社会政策学会 2008-2010 年第 13 回幹事会

(2)日時：2009 年 10 月 31 日(土)12:40～13:40

(3)場所：金城学院大学 W9-304 演習室

(4)出席：阿部、石井、岩田、埋橋、遠藤、小笠原、菅沼、  
玉井、久本、平岡、藤澤、室住、矢野、山本、  
垣田(オブザーバー) (出席 15 名)

欠席：小越、佐口、沈、鈴木、田中、都留、布川、  
宮本、森、吉村

(5)議題

#### 1. 会員の入会・退会

入会申込書が提出された 2 名の入会(ニューズレター前号掲載)承認された。

#### 2. 第 119 回大会実行委員会報告

山本幹事より、大会 1 日目の状況について報告が行われた。

大会は、64 名の当日申し込み者をあわせて、全体で約 250 名の参加があったこと、会場の変更があったこと、印刷物が足りないものがあり、不足分は印刷して午後後に渡せるように手配したことなどが報告された。

また、懇親会の申し込みは約 80 名であることが報告された。

### 3. 編集委員会報告

平岡幹事より、学会誌の執筆要領の改正について提案が行われ、了承された。

新要領の施行のスケジュールについて確認が行われた。実施については次回の投稿締切から行い、ニュースレターで周知することとした。

次に、「コメント」欄の新設について、これまでの幹事会での意見聴取も踏まえた提案が行われ、了承された。また、「リプライ」も査読対象とすることについて確認が行われた。

次号の学会誌の発行作業が遅れており、2010 年 1 月末発行予定(奥付は 2 月)との報告が行われた。

また、市販用の販売が伸び悩んでいるので、会員が所属する研究機関で購入をお願いすることとした。

最後に、本日の臨時総会において、二重投稿に関する注意、執筆要領の改正予定について案内することが報告された。

### 4. 広報委員会報告

菅沼幹事より、次号のニュースレターを 12 月 10 日頃

に発行する予定との報告が行われた。

掲載内容は、次の通りである。2010 年度春季大会の報告募集、学会賞推薦の依頼、幹事の選挙結果、臨時総会の議事、編集委員会からの報告。

あわせて、次々号のニュースレターを、2010 年度春季大会の開催スケジュールをふまえて調整する予定との報告が行われた。

### 5. 秋季大会企画委員会報告

小笠原幹事より、愛媛大学において開催予定の 2010 年度秋季大会の日程は 2010 年 10 月 30～31 日とする旨の報告が行われた。

また、書評分科会について、現行の形式で継続する方針について報告が行われた。

### 6. 学会賞選考委員会の委嘱について

阿部代表幹事より、昨日の幹事会にて、留任する遠藤公嗣委員、竹内敬子委員に加え、新たに佐藤忍会員(香川大学)、三重野卓会員(山梨大学)、室住眞麻子会員(帝塚山学院大学)への委嘱が承認されたことが報告された。

## 9. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門
2月14日承認分		
金 東煥	京都大学大学院経済学研究科	その他
福田 直人	東京大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉
角崎 洋平	立命館大学大学院先端総合学術研究科	社会保障・社会福祉
崔 海燕	一橋大学大学院社会学研究科	労働史・労働運動史
王 璋	日本女子大学大学院人間社会研究科	社会保障・社会福祉
小川 栄二	立命館大学産業社会学部	社会保障・社会福祉
畢 麗傑	立命館大学大学院国際関係研究科	国際関係学
大沢真知子	日本女子大学人間社会学部	労使関係・労働経済
富田 晋司	(財)静岡県労働者福祉基金協会静岡ワークライフ研究所	雇用・労働・福祉
谷 太一	大阪府立大学大学院人間社会学研究科	社会保障・社会福祉
植田 芳博	神戸大学大学院人間発達環境学研究科	社会保障・社会福祉
齊藤 彰一	岩手大学人文社会科学部	労働史・労働運動史
大村 和正	立命館大学文学部	その他
中野 裕史	関西大学大学院経済学研究科	労使関係・労働経済
中澤 高志	大分大学経済学部	その他
尾玉 剛士	東京大学大学院総合文化研究科	社会保障・社会福祉